

[495] “阿 Q 越想越气” —— 革命を許さず (五) 『阿 Q 正伝』を読む (18)

(69) “秀才娘子的宁式床也抬出来了”

又仔细的看，似乎许多白盔白甲的人，络绎的将箱子抬出了，器具抬出了，秀才娘子的宁式床也抬出了，但是不分明，他还想上前，两只脚却没有动。（さらに目を凝らして見てみると、おおぜいの白い兜に白い鎧の男が、次から次へと衣裳箱を担ぎ出し、家財道具を担ぎ出し、秀才の女房の寧波式の寝台まで担ぎ出しているようだ。だがはっきりとは見えないので、もっと前へ出てみようと思ったが、両足が動かなかった。）

この夜は月がなく、未荘は闇の中に静まり返っていた。阿 Q は立って見ていたが、さっきまでと同じ状態で、相変わらず行ったり来たり、次々と担ぎ出しているようだ。あんまり担ぎ出すので、自分の目が信じられないくらいであった。

(70) “白盔白甲の人明明到了”

けれども阿 Q は、もうこれ以上近づくまいと決心して、ねぐらの土地廟へと引き返した。

土地廟の中はいつそう暗かった。彼は表門をちゃんと閉めて、手探りで自分の部屋にもぐり込んだ。しばらく横になっていると、やっと気が落ち着いて、自分の事が考えられるようになった。

白盔白甲の人明明到了，并不来打招呼，搬了许多好东西，又没有自己的份，——这全是假洋鬼子可恶，不准我造反，否则，这次何至于没有我的份呢？（白い兜に白い鎧の人は確かにやって来たが、自分に声をかけてくれなかった。たくさんのめぼしい品物を運び出したが、自分の分け前はない。——これはみなあの憎いニセ毛唐が、自分に造反を許さなかったからだ。でなければ、どうして今回自分の分け前がないなんてことがあるのか。）

(71) “不准我造反，只准你造反？”

阿 Q は考えれば考えるほど腹が立ってきて、しまいには腸はらわたが煮えくり返らんばかり、にくにくしげにうなずいて、こうつぶやいた。

不准我造反，只准你造反？妈妈的假洋鬼子，——好，你造反！造反是杀头的罪名呵，我总要告一状，看你抓进县里去杀头，——满门抄斩，——嚓！嚓！”（俺には造反させないで、てめえだけ造反するのか。いまいましいニセ毛唐め、——よし、おまえは造反した！造反は首をちょん切られるんだぞ、俺はきっと訴えてやる。おまえなんか役所へ引っ立てられて首をちょん切られるんだ、——一家皆殺しだ、——バサッ！バサッ！とな。）

(72) “在半夜里忽被抓进县城里去了”

趙家が掠奪に遭ってから、未荘の人々はたいてい胸がすく思いがしながらも、やはり恐怖心を抱いた。阿 Q も胸がすく思いがしながらも、やはり恐怖心を抱いた。ところが、事件から 4 日後、阿 Q は夜中に突然捕らえられて县城へ連れて行かれた。たまたまその時は闇夜で、一隊の兵士と、一隊の自警団と、一隊の警官と、五人の探偵とが、ひそかに未荘に繰り込み、闇に乗じて土地廟を包囲し、入口の正面に機関銃を据えつけた。けれども阿 Q は飛び出してこず、長い間、何の動きもない。隊長は焦立って、銅錢二十貫の賞金を懸けた。それでようやく二名の自警団員が危険を冒して塀を乗り越え、内外呼応して一斉に踏み込み、阿 Q を引きずり出してきた。そのまま外の機関銃のそばまで引きずってこられた時、彼はやっと目が醒めたのだった。

2017/3/31